H27-B-4'深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると，H27-B-4'深度23.97～24.42mの破砕部における最新活動面は24.25mの断層面であるため変更した。

H27-B-4'　深度23.97～24.42m　ボーリングコア観察　断層面の認定

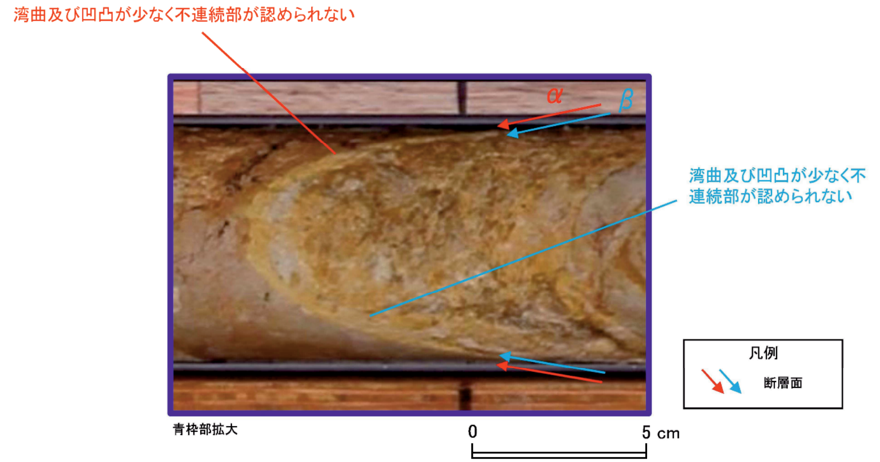
・ボーリングコア観察において，深度24.24mに断層面αが，深度24.25mに断層面βが認められる。
・断層面αは湾曲及び凹凸が少なく，直線性に富む。また，不連続部は認められず，連続性に富む。
・断層面βは湾曲及び凹凸が少なく，直線性に富む。また，不連続部は認められず，連続性に富む。

コア写真

凡例
←　→　破砕部範囲※
※：写真上は白色で記載

破砕部性状の記事

●23.97～24.42m：破砕部
23.97～24.20m：粘土混じり岩片部（Hj）
上端60°で波打ち，下端70°で大きく波打って連続。径5～20mmの硬さ「D」「E」の岩片と岩片間の粘土，一部砂からなる。にぶい黄橙～灰黄褐色を呈する。
24.20～24.24m：礫混じり粘土状部（Hc-2）
上端70°で大きく波打ち，下端75°で直線的に連続。径2～5mmの石英粒と岩片を10～20%程度含む。硬質。灰黄色を呈する。幅12～25mmで膨縮する。
24.24～24.25m：粘土状部（Hc-1）
傾斜75°で直線的に連続する。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅2mm。
24.25～24.33m：粘土混じり岩片状部（Hj）
上端75°，下端70°でともに直線的に連続。径10mm前後の粘土化が著しい岩片と岩片間の粘土細脈からなる。23.97～24.20mのHjより粘土量が多い。明褐色を呈する。
24.33～24.42m：粘土質礫状部（Hb）
上端70°，下端40°でともに直線的に連続。径2～30mmの粘土化した岩片を30%程度含む。にぶい黄橙色を呈する。

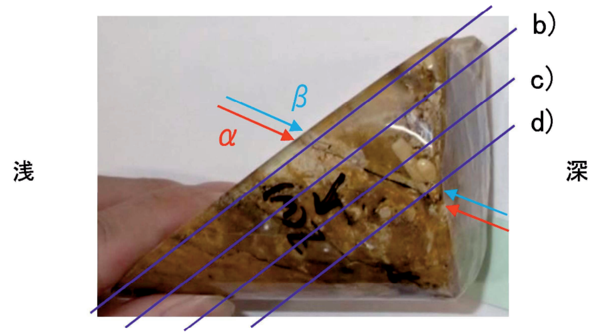


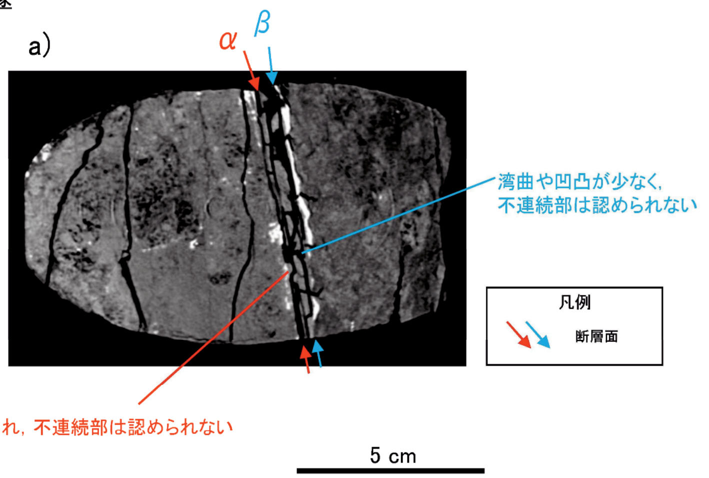
H27-B-4'深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

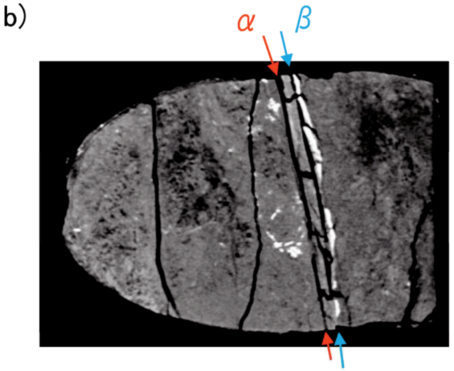
H27-B-4’ 深度23.97～24.42m CT画像観察 断層面の認定

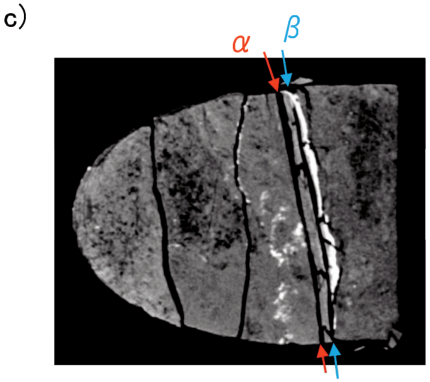
・CT画像観察において，ボーリングコア観察で認められた断層面α及び断層面βが認められる。
・断層面αは三次元的に他の構造に切られておらず，湾曲や凹凸が認められ相対的に直線性に乏しい。不連続部は認められず連続性に富む。
・断層面βは三次元的に他の構造に切られておらず，湾曲や凹凸が少なく相対的に直線性に富む。また，不連続部が認められず連続性に富む。

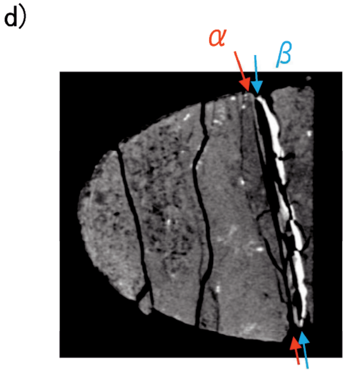
研磨片CT画像









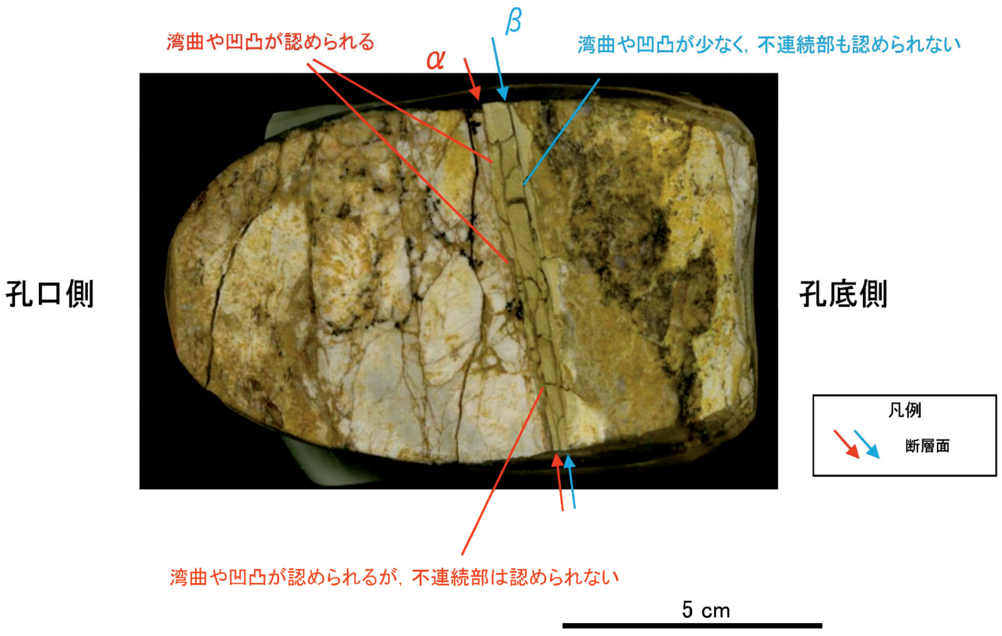


H27-B-4'深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

H27-B-4' 深度23.97～24.42m 研磨片観察 断層面の認定

・研磨片観察において，CT画像観察の結果と同様に断層面α，断層面βが認められる。
・断層面αは，他の構造に切られておらず，細粒部を伴い，湾曲や凹凸が認められ直線性に乏しい。不連続部は認められず連続性に富む。
・断層面βは，他の構造に切られておらず，細粒部を伴い，湾曲や凹凸が少なく直線性に富む。また，不連続部は認められず連続性に富む。
・ボーリングコア観察，CT画像観察，研磨片観察より，細粒部を伴い，最も直線的な深度24.25mの断層面βを検討対象の断層面とした。

研磨片写真

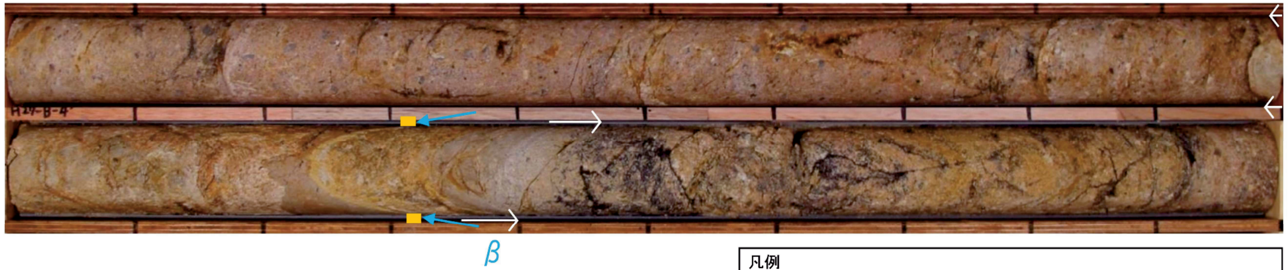


H27-B-4'深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

H27-B-4'　深度23.97～24.42m　薄片作製位置

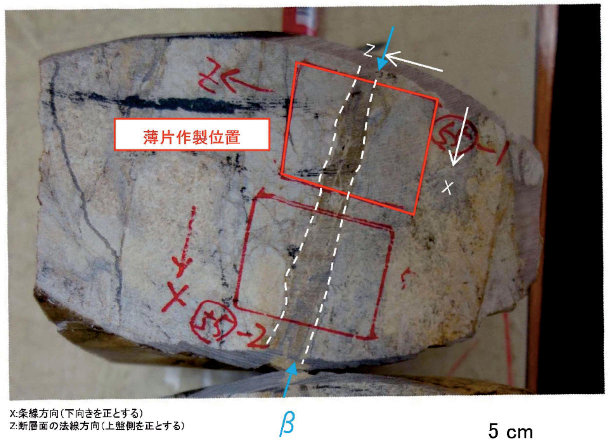
・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



凡例
断層ガウジ　←→ 破砕部範囲※　断層面
※：写真上は白色で記載

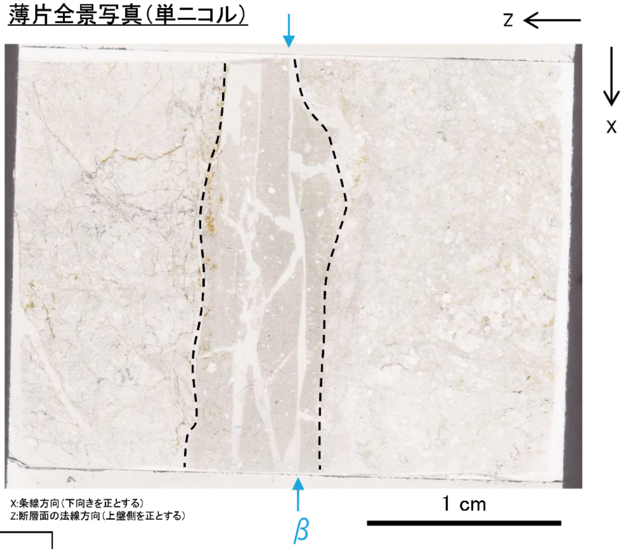
薄片作製位置写真



X:条線方向（下向きを正とする）
Z:断層面の法線方向（上盤側を正とする）

5 cm

薄片全景写真（単ニコル）



X:条線方向（下向きを正とする）
Z:断層面の法線方向（上盤側を正とする）

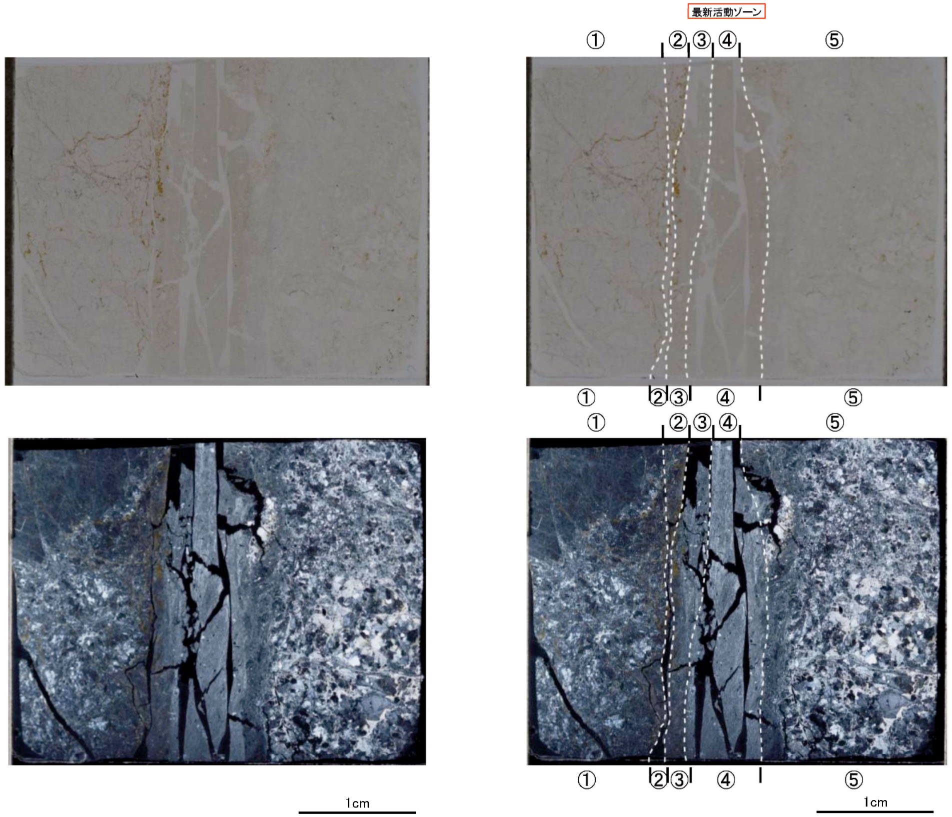
1 cm

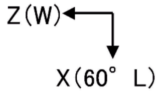
凡例
断層面　------- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
※：写真上は白色又は黒色で記載

H27-B-4′深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

H27-B-4’ 深度23.97～24.42m 薄片観察 分帯

・①のゾーンは，粘土鉱物の量は少なく，粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く，丸みを帯びている岩片が多い。
・②のゾーンは，粘土鉱物の量は少なく，粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく，丸みを帯びている岩片が多い。
・③のゾーンは，粘土鉱物の量は多いが，粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく，丸みを帯びている岩片が多い。
・④のゾーンは，粘土鉱物の量は多く，粘土鉱物の定向配列が認められる。岩片は少なく，丸みを帯びている岩片が多い。
・⑤のゾーンは，粘土鉱物の量は少なく，粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く，角ばっている岩片が多い。
以上のことから，細粒化が最も進んだ④のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。





単ニコル 全景写真

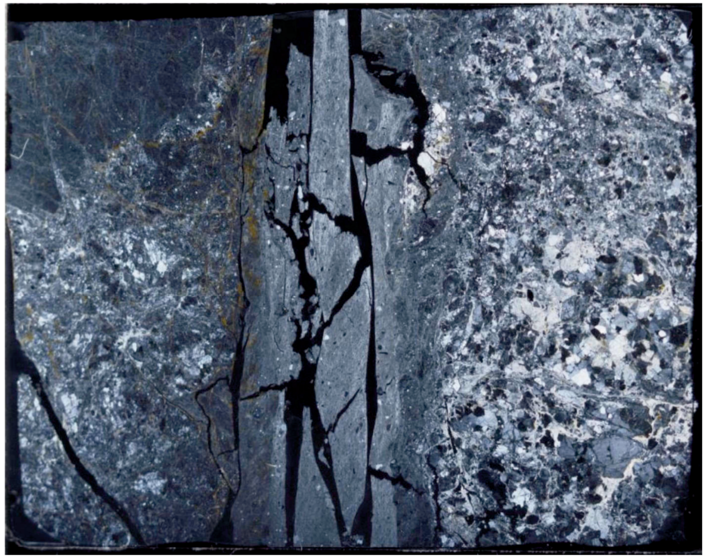
直交ニコル 全景写真

凡例
------ ゾーンの境界※
※:写真上は白色又は黒色で記載

H27-B-4’深度23.97～24.42m 最新活動面の深度（No.最-31）を変更

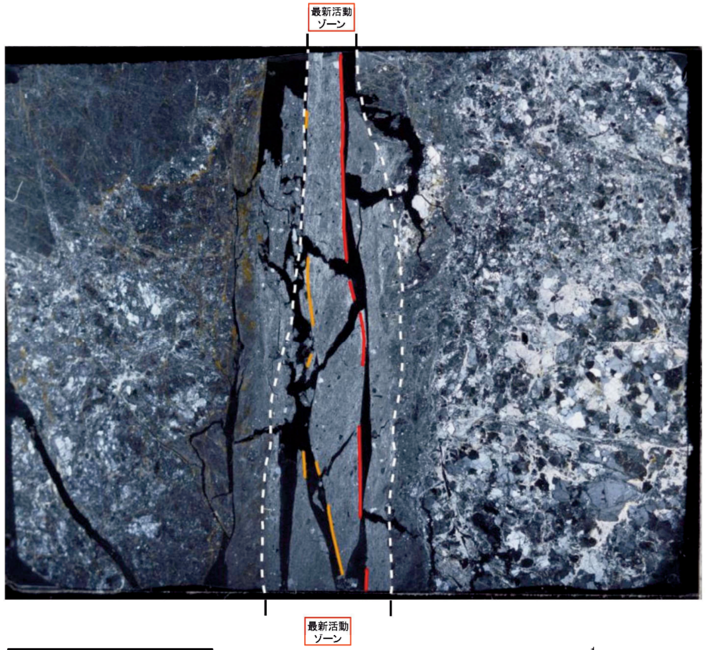
H27-B-4’ 深度23.97～24.42m 薄片観察 最新活動面の認定

・深度24.25mにおける断層面β沿いの最新活動ゾーンでは，他の構造に切られていないY面A，Y面Bが認められる。その分布を以下に示す。
・Y面Aは一部でやや湾曲するが直線性に富み，連続性に富む。明瞭である。
・Y面Bは直線性に富み，連続性はY面Aに比べ乏しい。細粒部を伴う。
・以上のことから，Y面Aを最新活動面と認定した。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

Z(W)

X(60° L)

1cm

凡例
Y面A
Y面B
最新活動ゾーン※
※:写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており，
割れ目や不明瞭箇所では記載していない

No.最-32～34 概要 （1/17）

1．変更内容、理由及び断層連続性評価への影響
・最新活動面の深度を108.71mに変更（No.最-32）
【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

・走向・傾斜をN39E80SEに変更（No.最-33）
【理由】最新活動面の変更に伴い，走向・傾斜を再取得した結果に変更

・条線を22Lに変更（No.最-34）
【理由】走向・傾斜の変更に伴い，条線を変更

【断層連続性評価への影響】なし

2．変更箇所

a　性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-32）
b　走向・傾斜をN39E80SEに変更（No.最-33）
c　最新活動面の深度を「108.71m」に変更（No.最-32）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）
d　ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-32）

No.最-32（変更），No.最-33～34（副次的変更）　　前後比較資料　(2/17)

H27-B-4 深度108.44～108.71m 最新活動面の深度（No.最-32）を変更

従前

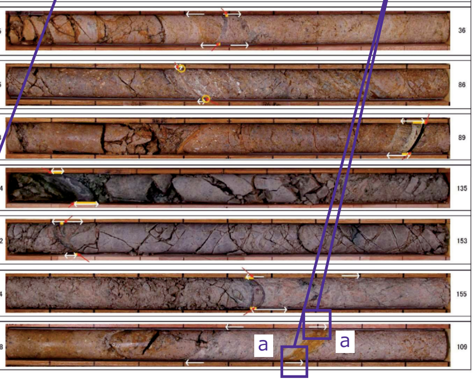
第８３３回審査会合
机上配布資料２
敦賀発電所２号炉　敷地の地形，地質・地質構造について
参考資料２　性状一覧表
参考2-169頁

第833回審査会合　机上配布資料2に追記（青太枠）

No.最-33（走向・傾斜）　No.最-34（条線）　No.最-32（赤矢印なし）

14.H−１〜f−b−４−６破砕帯
性状一覧表（13/13）

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲 上盤深度(m)	破砕帯範囲 下盤深度(m)	走向	傾斜	破砕幅(cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅(cm)	最新活動面 明瞭なせん断構造変形構造	最新活動面 平滑さ	条線方向	変位センス 鉛直	変位センス 水平	写真
f-d5-1-4	H27-D5-1（傾斜45°）	35.41	35.55	N2W	73W	4.1	0.3	無	-	80L	正	-	35 / 36
f-b-1-16	H27-B-1（傾斜45°）	85.38	85.41	N28E	86E	2.3	フィルム状	有	非平滑	90	正	-	85 / 86
f-b-2-14	H27-B-2（傾斜45°）	88.88	88.94	N35E	72W	5.4	2.0	有	非平滑	25L	正	右	88 / 89
f-b-2-20	H27-B-2（傾斜45°）	134.15	134.23	N16E	67E	7.4	2.0	有	非平滑	85L	正	-	134 / 135
f-b-2-21	H27-B-2（傾斜45°）	152.10	152.15	N28E	84E	4.0	0.1	無	-	30L	正	右	152 / 153
f-b-2-22	H27-B-2（傾斜45°）	154.53	154.71	N42E	[illegible]	15.7	0.5	有	非平滑	75R	正	-	154 / 155
f-b-4-6	H27-B-4（傾斜45°）	108.44	108.71	b N20E	87E	23.6	-	-	-	c 5L	-	-	108 a a 109



凡　例
↙：最新活動面　←→：破砕幅　━：断層ガウジ　○：粘土の狭在物が認められる箇所　＊1：露頭　＊2：試掘坑

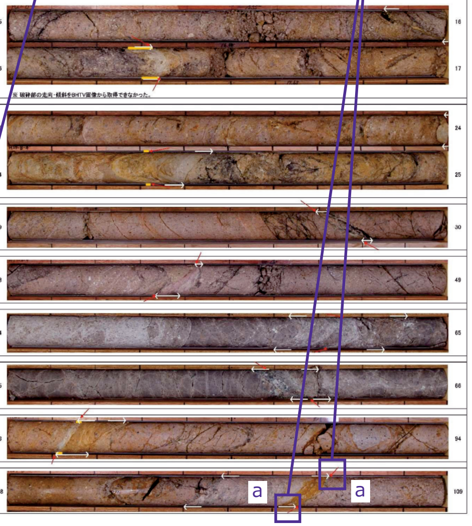
【破砕幅】
粘土状破砕部，砂状破砕部，角礫状破砕部，
固結した粘土状破砕部，固結した砂状破砕部，固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし，破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
【平滑さ】
平　滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-169

見直し後

No.最-33（走向・傾斜）　No.最-34（条線）　No.最-32（赤矢印位置）

確認箇所	破砕部番号	破砕帯範囲 上端深度(m)	破砕帯範囲 下端深度(m)	走向	傾斜	破砕幅(cm)	断層ガウジ・断層角礫 有無 肉眼	断層ガウジ・断層角礫 有無 薄片	断層ガウジ・断層角礫 有無 総合	断層ガウジ・断層角礫 幅(cm)※1	最新活動面の明瞭なせん断構造変形構造※1	条線方向※2	変位センス※3 鉛直	変位センス※3 水平	破砕帯名/断層名	写真
H27-B-4（傾斜45°）	①	15.91	16.36	−※	−※	31.8	有	-	有	2.5	有	-	-	-	D-1	15 / 16 / 16 / 17 ※ 破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかった。
H27-B-4'（傾斜45°）	①	23.97	24.42	N16W	83W	18.9	有	有	有	0.2	有	60L	正	右	D-1	23 / 24 / 24 / 25
H27-B-4（傾斜45°）	②	29.74	29.78	N1E	75W	2.3	無	無	無	-	-	31L	正	右	非モデル化	29 / 30
H27-B-4（傾斜45°）	③	48.39	48.43	N48E	78SE	4.0	無	無	無	-	-	80R	正	-	非モデル化	48 / 49
H27-B-4（傾斜45°）	④	64.65	64.91	N4E	87E	19.8	無	無	無	-	-	50L	正	右	H-5c	64 / 65
H27-B-4（傾斜45°）	⑤	65.59	65.72	N1W	80W	11.7	無	無	無	-	-	59L	正	右	非モデル化	65 / 66
H27-B-4（傾斜45°）	⑥	93.13	93.22	N17E	75W	7.9	有	有	有	1.2	有	42R	正	左	H-7	93 / 94
H27-B-4（傾斜45°）	⑦	108.44	108.71	N39E	b 80SE	23.6	無	無	無	-	c -	22L	-	右	f-b-4-6	108 a a 109



※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し，肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「ー」を記載
※2 斜めボーリングの場合は，計測値を補正した値を記載
※3 卓越しない成分については「ー」を記載（両成分「ー」は薄片観察を行っていない箇所）
−（上記以外）：データを取得していない箇所

凡　例
↙：最新活動面　←→：破砕幅
カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す
━：断層ガウジ　━：断層角礫

第7.4.4.420図　破砕部性状一覧（H27-B-4（H27-B-4'））

6-7-1601